

取組 番号	担当課	具体的施策	取り組み内容	昨年度の課題	取り組み実績	評価	今後の課題	成果指標							
								指標名	実績 (R3年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値
重点目標4 推進体制の充実・連携強化															
【施策の方向】1. 市の推進体制の充実															
114	総務課	33. 横断的な推進体制の整備と施策の推進	男女共同参画推進会議の開催	今後も庁内における男女共同参画の横断的な推進のため、継続して実施する。	6月に実施。第4次計画の令和4年度実施状況について報告を行った。	A	今後も庁内における男女共同参画の横断的な推進のため、継続して実施する。	-	-	-	-	-	-	-	-
115	総務課	33. 横断的な推進体制の整備と施策の推進	男女共同参画ワーキンググループ員会議の実施	ワーキンググループ員の意識啓発が行える取組の実施	職員研修、男女共同参画フォーラムにおいては、ワーキンググループ員への参加を呼びかけた。	B	今後もワーキンググループ員への研修・フォーラム参加を呼びかけていく。	-	-	-	-	-	-	-	-
116	総務課	33. 横断的な推進体制の整備と施策の推進	男女共同参画計画の推進状況の公表	分かりやすい公表方法の検討	市HPへ掲載した。	A	分かりやすい公表方法の検討	-	-	-	-	-	-	-	-
117	総務課	33. 横断的な推進体制の整備と施策の推進	指定管理者（働く女性の家）との連携	市男女共同参画推進室と働く女性の家それぞれの役割を考えながら、男女共同参画社会実現のための連携した事業実施を行っていく	働く女性の家主催事業において、市の広報媒体での周知を積極的に行った。 また、10月に中央公民館・働く女性の家合同まつり、2月に男女共同参画フォーラムにて「おゆずり会」を実施。計230人ほどが来場した。	A	「おゆずり会」を今後は他部署所管のイベント等においても開催できるよう連携していく。	-	-	-	-	-	-	-	-
118	総務課	34. 男女共同参画に関する職員の意識啓発	市役所職員研修の実施	男女共同参画に対する理解・意識形成のため、今後も引き続き啓発を続けていく。	性自認、性的指向に関する職員研修を実施。 県内のLGBTQの団体の代表、当事者でもある会員から、職員として知っておきたい基礎的理解、当事者の実体験について講演いただいた。 参加者：100人	B	男女共同参画に対する理解・意識形成のため、今後も引き続き啓発を続けていく。	アンケートで理解が深まったと回答した職員の割合（男女共同参画について）	86.9% (令和2年度)	91.5%	91.5%				100%
119	学校教育課	34. 男女共同参画に関する職員の意識啓発	教職員の校外研修への参加促進及び校内研修の実施	校外での教職員研修（オンライン研修を含む）への積極的な参加をさらに促していく。	男女共同参画に関する正しい理解のため、校内研修を計画的に実施している。校外の研修参加についても引き続き、情報提供し参加を促した。	A	校外での教職員研修（オンライン研修を含む）への積極的な参加をさらに促していく。特に若手の教職員の研修機会を保证する。	男女共同参画をテーマにした教職員校内研修の実施校数	- (100%)	100.0%	100%				13校
【施策の方向】2. 国際社会の理解とSDGsの推進															
120	総務課	35. 国際的な協調及び貢献に向けた施策の推進	男女共同参画に関する国際的な情報の発信	市民に興味・関心を持ってもらえるような内容・方法での情報発信を考えていく。	管理職・女性職員研修におい世界経済フォーラムより出されたジェンダーギャップ指数についても話をした。	B	市民に興味・関心を持ってもらえるような内容・方法での情報発信を考えていく。	-	-	-	-	-	-	-	-
121	学校教育課	36. 世界遺産を活用した学習の推進	荒尾干潟・万田坑・宮崎兄弟生家を通した郷土学習の実施	新型コロナウイルスの影響もありすべての学校で現地学習が実施できていない状況があったが、すべての学校において活用できるよう促していく。	小学校において、荒尾干潟、万田坑、宮崎兄弟生家を郷土学習として位置づけ、学習している。郷土学習テキストを活用。中学校では荒尾市の歴史、文化について海外の中学生との交流会で発表している。	A	全ての学校において世界遺産等を活用した授業を推進するとともに小学校6年間で全ての世界遺産を現地で学習をする。	（荒尾干潟・万田坑・宮崎兄弟の生家のいずれかを訪れた小学校の割合）-	80.0%	90.0%	100%	-	-	-	-

取組 番号	担当課	具体的施策	取り組み内容	昨年度の課題	取り組み実績	評価	今後の課題	成果指標							
								指標名	実績 (R3年度)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値
【施策の方向】3. 多様性を尊重する環境整備															
122	人権啓発推進室	37. 性的指向・性自認に関する人権に係る配慮	市役所職員研修の実施	令和5年度に性的指向・性自認に関するパンフレットを作成し、更なる職員研修の充実に努めていく。	令和5年9月5日に男女共同参画推進室と合同で「令和5年度性的指向・性自認に関する職員研修」を開催し、ともに拓くLGBTQ+の会代表の今坂氏と久美華氏を講師に、「性的マイノリティへの理解を深める」と題して、昨年度に引き続きLGBTQ+に関する基礎的理解について説明して頂くことが出来た。	A	性的マイノリティの方に対して、電話・窓口等への具体的対応についてのロールプレイ研修等の開催や、提出書類の性別欄取扱いいについて、各課と連携して見直しが必要。	-	-	-	-	-	-	-	-
123	総務課	37. 性的指向・性自認に関する人権に係る配慮	市役所職員研修の実施	まずは全職員に正しい知識と理解が必要である。今後も研修を通して啓発を進めていく。	性自認、性的指向に関する職員研修を実施。県内のLGBTQの団体の代表、当事者でもある会員から、職員として知っておきたい基礎的理解、当事者の実体験について講演いただいた。 参加者：100人	B	まずは全職員に正しい知識と理解が必要である。今後も研修を通して啓発を進めていく。	アンケートで理解が深まったと回答した職員の割合（性的指向・性自認について）	未実施	94.3%	94.4%				100%
124	人権啓発推進室	37. 性的指向・性自認に関する人権に係る配慮	人権パンフレットの作成	総務課男女共同参画推進室と連携を図りながら、他自治体などの取り組み事例を参考に作成していく。	令和5年度に荒尾市職員向けに「多様な性に関する職員ガイドライン」を作成予定であったが、作成案に各課・室からの意見を集約してより良いガイドラインを作成することとなった。	D	来年度の人権教育・啓発推進員会議において作成案を各推進員へ説明し、各課・室からの意見を取りまとめてガイドラインを完成する。	性的少数者に関する人権問題について「わからない」と回答した市民の割合	未実施	-	-				20.0%
125	学校教育課	37. 性的指向・性自認に関する人権に係る配慮	教職員の学習の推進	校外や特別支援教育研修会での研修が主であり、全職員が研修に参加できる体制作りが必要である。	市としてLGBTQについて外部専門家を招いての研修は実施しなかったが、各学校の校内研修においてLGBTQについての研修を10／13校が実施している。	B	校内研修や校外や特別支援教育研修会での研修を含め、全職員が研修に参加できる体制作りを推進していく。	-	-	-	-	-	-	-	-
126	生涯学習課	38. 外国人との相互理解を深めるための啓発や交流の推進	外国人のための社会教育の推進	・参加者のニーズや継続して参加したくなるプログラムを検討していく。	「食」を通した体験イベントを6回（おにぎり、流しそうめん、おもち、インドネシア郷土料理等）、季節行事を2回（七夕、野原八幡宮例大祭見学）、その他かるたやすごろく等を毎月第3日曜日、計12回実施することができた。 食のイベントを通じて参加者同士の交流を深めることができ、リピーター獲得につながった。	A	・参加者のニーズや継続して参加したくなるプログラムを引き続き検討していく。	日本語教室の参加者数	33人	35人	101人				20人
127	総務課	38. 外国人との相互理解を深めるための啓発や交流の推進	外国人（女性）のための相談窓口	外国人住民への相談室の周知。 周知先、周知内容を検討する必要がある。	日本語交流広場に相談室のチラシを配布。 外国人の方に伝わるよう、やさしい日本語で作成した。 R5年度、外国人と思われる方からの相談はなかった。	B	外国人の方向けに一次相談窓口となり、専門の相談窓口へとつないでいけるような体制を作っていく。	外国人（女性）の相談件数	未実施	0件	0件				-
128	文化企画課	38. 外国人との相互理解を深めるための啓発や交流の推進	多文化共生意識の醸成・啓発	郷土学習でまだ宮崎兄弟の生家施設に見学に来ることが出来ない、ないし出前講座を利用していない小中学校があるため、青少年国際交流推進事業を催しても、市内全校に取り組んでもらえるように働きかける必要がある。	出前講座・現地学習にて、国を超えて友情を結んだ宮崎兄弟と孫文の歴史を紹介し、今日の荒尾市の国際交流にも繋がっていることを説明した。 【出前講座】緑ヶ丘小（6月）、平井小（9月）、中央小（1月） 【現地学習】緑ヶ丘小・一小（6月）、四中（9月）、平井小（2月）、府本小・中央小（3月）	B	昨年度末より、出前講座・現地学習ともに取組み校が増えているものの、市内の半分にとどまっているため、青少年交流事業と連携し市内全小中学校に取り組んでもらえるよう調整する必要がある。	小中学生対象郷土学習の参加者数	428人	325人	529人				700人
129	文化企画課	38. 外国人との相互理解を深めるための啓発や交流の推進	多文化共生意識の醸成・啓発	令和5年度は、市内在住の中学2年生を対象に新たに参加者を募集し、選抜された10名がシンガポールを訪問、現地の中学生と対面交流を行う計画である。オンライン交流では体験できない経験を確実に積んでもらい、グローバルな視点を有し多様性を尊重できる人材の育成に資することをめざす。	事前学習を経て、市内在住の中学2・3年生18名がシンガポールを訪問（8月）。現地の中学生との交流を通して、男女関係なく学校生活を送っている様子や多文化・宗教が混在しているようすを実際に見て体感させることで、子どもたちの価値観に良い影響を与えることが出来た。	A	令和6年度には、シンガポールの中学生が荒尾市を訪問する予定であり、訪問と受入れを交互に行い、より相互理解が深めるよう企画することが必要である。	青少年国際交流推進事業参加者数	9人	9人	18人				15人